



地域日本語支援ニュース こだま 第 399 号

2021.3.25



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

====目次=====

1■日本で生きる：神戸市から■

十年後の夢に向かって～「しんさくら教室」～

NPO 法人神戸定住外国人支援センター

奥 優伽子

2■お知らせ■

オンライングループレッスン開講（AJALT）のご案内

=====

1■日本で生きる：神戸市から■

397号に続き、第三国定住（注1）難民として来日した家族の定住後の支援をしている日本語教室からのご報告をお届けします。2018年にマレーシアから来日したミャンマー難民の5家族は、RHQの定住支援プログラム（注2）を経て、神戸市に定住しました。NPO法人神戸定住外国人支援センターが定住支援のために立ち上げた日本語教室「しんさくら教室」の活動の様子を、奥優伽子さんにご紹介いただきます。

.....

十年後の夢に向かって～「しんさくら教室」～

NPO 法人神戸定住外国人支援センター  
奥 優伽子

2月1日正午過ぎ、民主化の道を歩んでいたミャンマーにクーデターが起きたニュースが飛び込んできました。「しんさくら教室」のミャンマー出身の方々の顔が思い浮かびます。みんなの家族や親戚は大丈夫だろうか、心が痛むのは、2年近く一緒に日本語を学習してきたからに違いありません。

◆「しんさくら教室」

2019年3月、第三国定住難民の5家族22人が神戸に引っ越してきました。NPO 法人神戸定住外国人支援センターが生活支援と日本語学習支援を引き受けました。家財道具や消耗品の寄付を募り、「日本語教室」を立ち上げ、生活が順調にいくよう支援を開始しました。引越し一週間後には日本語教室を開始、新しい生活と日本のイメージである桜から「しんさくら教室」と名付けられました。

◆十年後の夢

講師陣は難民の方に、また家族全員に日本語教室をするのは、初めての経験でした。教室をどうするか話し合いを重ねました。今、振り返って思います。もし「教え込む」タイプの講師だったら、このアイデアは出なかったかもしれません。コーチングの知識と技術を持ち、ファシリテーターが前職だった坪田潤講師が提案してくれました。「日本で生活をしていく彼らが、今後どうなっていきたいのかを知ることがまず必要なんじゃないか。学習を本格的に始める前に『10年後、こうなりたい』という夢を家族で話し合って発表してもらおうのはどうか。」この企画は学習者と講師双方に効果がありました。

「かぞくのゆめ…日本に自分の家と車を持ちたいです。ふたりの子どもを大学に行かせたいです。」全家族、自分の家を持つことは夢です。子どもの将来も考えていました。個人では、「ミシンで服を作りたい」「夢はコンビ

ニを開くこと」「おいしいケーキを作って店で売りたい」「仕事のリーダー  
または小さい店を開きたい」「デザイナー」等々明るい未来像があふれまし  
た。

難民の方って何か特別なんじゃないかなあとぼんやりと心配していたこと  
が、夢を聞くことによって気が付きました。人の普遍的な夢って気持ちって、  
ああ、私たちと一緒に、何も変わりありません。この時から講師とスタッフは  
支援応援部隊として夢を叶える仲間となりました。

目標がはっきりとしたことで、「日本語がもっと上手にならないといけな  
い、上手になりたい」と学習への動機づけもでき、その後の日本語学習にし  
っかりと結びつきました。

#### ◆初めての学校生活

家族の中の半数は子どもです。皆さんは日本に来る前、ミャンマーを逃れ  
てマレーシアで生活していましたが、一時的庇護国であるマレーシアでは在  
留資格が得られず、子どもたちは公的な学校に通うことができませんでした。  
神戸に来て初めて小学生になりました。初めの頃、「しんさくら教室」では、  
じっと座っていることができませんでした。しつけをすることも私たちの役  
目でした。日本語と算数の時間割を決め、外で遊ぶ時間も確保し、元気いっ  
ぱいの子どもたちと楽しく学習をしていきました。

つい先日、一人の子が初めて自分の小さかった時の話をし始めました。  
「両親が店で働く間、裏の部屋にいて云々…」きっと寂しかったことでは  
う。三木まり講師の元、自己表現ができる力も伸びてきました。

学習の面では、高学年は就学年数の少なさがまだハンデとなっていますが、  
低学年はハンデは感じません。ただ、ご両親が日本の学校の経験がないので、  
継続的なサポートは必要だと思います。

#### ◆試験に挑戦

今日は2月10日です。この原稿を書いていると、嬉しいニュースが入って  
きました。12月のJLPT合格の知らせです。タイの難民キャンプでボランティ  
ア活動をしていた下城博人講師と試験勉強をしていた学習者からです。コロナ

禍で教室がない時も毎週家で勉強を続けていました。漢字は得意ですが読解は苦手でしたので、足切りに合わないか気にかかっていました。

試験には、未就学者や就学年数の少ない方も挑戦しました。片岡育子講師が背中を押し、寄り添い励ましてくれました。試験に時間制限があること、鉛筆と消しゴムを持っていくこと、マークシートの塗り方、解答用紙のどこに名前を書き、どこに解答を書くか、きめ細かなサポートが必要でした。試験を受けるという意欲を持ってくれたことが大きな進歩です。

#### ◆さいごに

教室の理念は、学習+居場所です。新しい環境へ適応することは想像以上に大変なことです。教室では日本語学習もしますが、彼らの居場所、自分たちの場としての機能も果たしたいと思いました。教室は土曜日です。休みの日に5家族が集い、日本社会の苦労を共にする仲間、ミャンマー語で情報交換やおしゃべりができる場を目指しました。

今2年経って、一人ひとり、日本語能力や仕事、生活環境に違いが出てきました。私たちの「しんさくら教室」は状況に合うように、新しく変わらないといけないかもしれません。

NPO 法人神戸定住外国人支援センター

ホームページ

<https://www.social-b.net/kfc/>

注1 「第三国定住」とは、難民キャンプ等で一時的な庇護を受けた難民を、当初、庇護（庇護とは、迫害などからかばって守ることを意味します）を求めた国から、新たに受け入れに合意した第三国へ移動させ、長期的な滞在権利を与えることを言います。日本は、この制度によるミャンマー難民の受け入れを2010年から開始し、これまでに194名を受け入れています。2015年（H27）からは、一次庇護国（最初に庇護した国）であるマレーシアからミャンマー難民の受け入れを行っています。

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201201/5.html>

注2 RHQ（難民事業本部 Refugee assistance headquarters）は、政府から委託を受けて、難民が日本で自立定住していくための支援を行う組織として、

(公財) アジア福祉教育財団の中に設置されています。RHQ では、条約難民と第三国定住難民を対象に、日本語教育、生活ガイダンス、就労支援他の定住支援プログラムを実施しています。

---